

長野県産米生産・流通・消費等検討会議（第1回）（7/31）結果概要

1 出席者

生産者2名、集荷業者2社、卸売業者2社、小売業者5店6名、中食業者1社、消費者1名
オブザーバー 関東農政局長野県拠点、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県農協中央会
県関係 産業政策監、農政部長・次長、農業技術課長、農産物マーケティング室長、
くらし安全・消費生活課長、産業政策課長、産業技術課長

2 意見交換での主な発言

① 集荷業者

- ・R6年産米の集荷量は、前年比10%少なかった
 - ➡ 取引先の出荷量に応えられていない。他社への流出が要因か
農家段階で、縁故米などのオファーや直売が増えたものと認識
- ・備蓄米を踏まえると、(量的には)前年並み以上の出荷をしている
- ・生産コストだけでなく、流通コストも増大となっている
- ・県内流通量を増やすことは、是非やってほしい。県内の需要に応えられるだけの生産体制を維持してほしい
- ・冷静な消費行動。適正な備蓄運営を国へ要望してほしい

②卸売業者

- ・県産米の仕入れが減ったため、県外産を仕入れたり、高価格帯で民間が流通しているコメを仕入れるようになった
- ・従来の10kg袋よりも、5kg袋、2kg袋に小分けして出荷するようになり、製造に係る時間が増え、人件費が増加した
- ・県産米は品質がよいと評判でかつ比較的安価であるため、県外から求められ、県内分として確保・流通するのが難しい

③小売業者

- ・小売業者として供給責任を果たせなかった。安定的に消費者に届けられなかった
- ・量的には前年並みに確保しても、消費者の購買意欲が上がって消費が旺盛である
- ・学校給食への活用(食育)は必要で、農家のモチベーションになる
- ・国における農業・農業者への予算も増やす必要がある
- ・インバウンド需要だけでなく、東・東南アジアからの労働者の消費量が多い
- ・地産地消は大切である。「県産コシヒカリ」、「風さやか」を供給できるようにしてほしい

④中食業者

- ・病院・福祉施設の給食、社員食堂などは県産米を使っていたが、仕入れが難しくなってきた。公共性の高い相手(病院・福祉施設)向けには、供給を優先する
- ・県外からの仕入れを行った。輸入米は検討した
- ・流通コストの透明化が遅れている。透明化することで農家が守られる

⑤生産者

- ・外的要因(資材コスト高騰など)による価格の高騰である。今年もこのまま推移する
- ・生産者にとって増産は簡単ではない。施設・設備投資に係る補助や融資を拡充(補助率かさ上げ、水稻を補助対象など)するよう国へ要望してほしい
 - ➡ 農家段階でのコスト削減は限界となっている
- ・高温耐性、耐倒伏性、多収性、良食味の品種を開発してほしい
- ・本田以外の畦畔管理が大変である。直播栽培の普及などの省力化を進めてほしい
- ・農家は儲かっていない。23,000円/60kgは30年前の価格に戻ったもの
- ・国のコメ政策の先が見えないので不安である
- ・本会議の開催は、ありがたいと思っている

⑥消費者

- ・どこのスーパーで売っているのか分からない ➡ 受け取る人による情報格差がある
- ・冷静な消費行動を呼びかけるとあるが、適切な情報が入手できるような発信方法必要

⑦農協中央会

- ・ J Aからは、大幅な需給緩和を心配する声がある。 ➡ 離農が進むことになる
- ・ 再生産可能な適正価格の形成、消費者の価格転嫁への理解醸成をしっかりと取り組むべきである

⑧商工団体

- ・ 備蓄米の仕入れ対象にならなかった
- ・ 仕入れができなく、販売に苦勞している小規模な米屋が倒産している
 - ➡ 低利な融資などをできるようにしてほしい